

(学位第8号様式)

No. 1

学位論文審査結果の要旨	
学位申請者 氏 名	Toyimi Godfrid Erasme Ibikoule
審査委員	主査 鹿児島大学 教授 李 哉滋
	副査 鹿児島大学 教授 坂井 教郎
	副査 佐賀 大学 准教授 辻 一成
	副査 鹿児島大学 教授 豊 智行
	副査 琉球 大学 教授 内藤 重之
審査協力者	
題 目	<p>Critical Issues Related to Cooperative Roles in the Maize Sector of the Republic of Benin-Performance Analysis and Collective Marketing Challenges-</p> <p>(ベナン共和国のトウモロコシ生産をめぐる協同組合の役割と課題-農協の経済効果と共同販売事業が抱える問題を中心に-)</p>
<p>ベナンにおいては、輸出向けの綿花の生産に大きく傾斜している農業構造が度々問題として指摘されてきた。そこで、近年は、経済成長や人口増加に伴う食料の需要拡大への対応に資すべく、主食たるとうもろこしの生産拡大が図られている。</p> <p>しかしながら、小規模生産者が営む、とうもろこしの生産・販売は、伸び悩む収量、農業資材の調達および市場へのアクセスの困難など多くの課題に直面している。そのために、目下、ベナンにおいては、とうもろこしの生産者が組織する農協（以下に、MPC）の設立が盛んであるが、営農指導、信用事業、共同購買・販売事業を通じて生産性向上や生産物の有利販売に貢献する、農協に固有な役割に期待を寄せているからである。</p> <p>こうした中、先行研究に目を向けば、関連統計の不備がMPCの実態へのアクセスを妨げているほか、MPCの事業成果を検証し、そのパフォーマンスの向上に向けた示唆を導いている研究成果はないに等しい。</p> <p>以上のような事情に鑑み、本研究は、MPCの設立が最も顕著に見られる、北部アリボリ地域のMPCを対象に、組合員への経済的貢献を検証すると同時に、農協のパフォーマンスに関</p>	

与する MPC の組織構造やガバナンスの実態を明らかにすることを研究課題として設けている。加えて、MPC に必要な競争戦略を見出すために、とうもろこし生産者が選択する MPC 以外の出荷チャネルの存在およびその選択に関与する要因を探っている。各々の研究課題・目的に合わせた研究方法、分析の結果は以下の通りである。

MPC の経済的貢献に関しては、とうもろこし生産者を MPC の組合員と非組合員に区分し、ランダムに抽出した 380 のサンプルを対象に、傾向スコアーマッチング分析 (PSM) を用いて MPC の有意性を検証した。その結果、組合員は農協が提供する改良種子、穀物貯蔵施設の利用が可能となっているにも関わらず、とうもろこしの収量や農業所得に関しては、非組合員との間に、顕著な格差が示されなかった。

一方、MPC の組織構造やガバナンスの実態については、6 つの農協のケーススタディに基づき、共同販売事業への組合員参加が乏しい農協では、組合員の意思決定への参画や専門的なスタッフが提供する営農指導を受ける機会が十分に保障されていないことが確認できた。

最後に、MPC の競争戦略のあり方を探るにあたっては、ランダムに抽出した 246 のとうもろこし生産者が、販売チャネルの選択に考慮する諸要因をプロビット回帰分析より析出した。その結果、産地集荷商人が提供する収穫前の代金決済、収穫後の運搬に関する何らかの支援が、多くのとうもろこし生産者が MPC 以外の販売チャネルを選択する主要な理由であることが明らかになった。

以上のように、研究課題に合わせた幾多の調査、定量分析や定性分析を組み合わせた緻密な分析結果から得られた研究成果は、ベナン国において、小規模農業生産者の生産性および所得向上の手段として期待されている。農協の事業パフォーマンスの向上に資する大きな示唆を提供している。従って、審査委員一同は本論文を博士（農学）の学位論文として十分に価値あるものと判定した。